
なあすりいらいむ

ame*

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

なあすりい らいむ

【Nコード】

N8871E

【作者名】

ame*

【あらすじ】

ひらがなだけで書いた、不思議モードの詩。毒入りかも。

おどりは

おどりは

ひとつ

だけ

しつもん

を

させて

ください

あなた

は

ふえあいい

が

みえる

ひと

ですか

ほら

あの

そら

に

のびる

むげん

の

かいだん

の

とちゅう

おどりはの

じんるい

の

れつ

の

せんとう

は

まえ

に

すすんで

いる

のか

あとずさつて

いる

のか

わからない

けれど

ふえありい

は

その

ずっと

さき

で

はなやか

に

おどつて

いる

の
です

は
それ

じかん
に

きりとられた

えいえん

の
しるえつと

けれども
くも

や
かぜ

もり
や

は
だいち

はしりまわる
こどもたち
が

ずがいこつ
を

けつて
あそぶ

あの
げーむ

めぐらして
います
を
はかりごと
と
のばそう
に
さき
なんとか
を
こと
しまう
して
に
おわり
を
すべて
きまって
が
ごーる
で
それ
こそ
が
すべて
の
はじまり
から
そんざい

で そこ
はて の よる と ひる ひからびる に からから が だいち やがて
ありません えいえん けっして は それ でも
です な しすてむ の せかい いて して

おこなわれる
やみ
の
なか
の
まつり
で
こうてい
は
ころされます
だんまつま
の
おどり
の
あと
からだじゅう
から
ち
を
まきちらして
たおれた
その
したい
は
から
しかし
やがて
しょくぶつ
が

めづき

この

せかい

に

ひかり

が

よみがえり

ほうじょう

の

ときが

おとずれる

でしょう

あなた

は

ふえありい

が

みえる

ひと

ですか

もし

そうだったら

あなた

は

あの

おどりは

で

ふえありい

と

いつしよ

に

おどれる

かも

しれません

みおろす

ちじょう

の

あたり

いちめん

に

は

はなばな

が

さきみだれ

さきみだれ

でも

その

はなばな

は

にんげんたち

に

やすらぎ

を

あたえる

ため

に

さいている

あなた
ですか
ひと
みえる
が
ふえ
ありい
は
あなた
は
なりなさい
と
ようぶん
の
はなばな
くさりはて
で
ねもと
その
は
ゆめたち
やぶれさつた
の
すべて
の
せかい
わけ
では
ないから

ふえ
あり
い
が
は
みえる
ひと
ですか

せかいが しんだ あとの ららばい

せかいが しんだ あとの ららばい

せかいが しんだ あとで
あたしは うまれてきたの

りびんぐの そふあの うえに
ほんとうに とつぜんに

とつぜん うまれてきた あたしには
ほいくきの きおくの かけらも
あかちゃんだった ころも

こどもじだいも ない

でも あなたは けっしてそれを
かわいそうだなどと おもわないで
みじめには かんじないけど
ぶじよくされた きぶんになるから

まどがらすの そとは だましえの まち
あたしは おもてに でて
そこを ひとり あるいてみる

おきざりにされた まちは
こんすいに おちいったまま
たそがれいろが しみついて
せんたくしても おちない

せかいが しんだ あとで
あたしは うまれてきたの

あたしは おおきな こえで
せかいじゅうに むかつて いうの
せかいが しんだ あとで
あたしは うまれてきたのだと

だれかが あたしの かみを
みんな きつて しまつて
それは かぜに のつて
そらの たかみを さまよう

あなたの しわざだと しても
うらむ きもちはないから
たった ひとつだけ ある
ささやかな おねがいを きいて

せかいを おもいだす よるには
ぞうげで つくつた ふえを ふいて
さみしい しらべでも いいけど
なるべく かわいた ねいろで

せかいが しんだ あとで
せかいを おもいだす よるには
ふたりで・・・

M o o n B e a m B o o g i e

M o o n B e a m B o o g i e

かうんと とつてよ むーんびーむ ぶぎー
こんやの おつきさまは
うすぎりの ちーずくらい
ほどよい あかるさだね

しんげつの よるじゃないけど
ふかみどりの もりのおくでは
まじよたちが あつまって
さばとが びーとこーずおん

だって ひとつきに いかいじゃ
ちけつとは とても たりない
せんねん さきまで そーるどあうと
みんなが よっきゆうふまん

しびれる ぎたーで むーんびーむ ぶぎー
おおきな なべの なかでは
よだれが でちゃうよ まっくろな しちゅー
ひきがえるや とかげも たべごろ

それから こいつも おすすめ
ふしぎな ペぱーみんとどりんく
のんだら とんでく よぞらの てっぺん
まぬけな よのなか わらえるよ

だいまおうさまは さべつしない

おちこぼれも ほーむれすも

どろぼうも さぎしも てろりすとも

だから みんな おいでよ

でーとを どたきやん されたこも

こえさえ かけられたことのない あんたも

おかねが なくても だいじょうぶ

さいんで すべて おーけー

さあさ おどろうよ むーんびーむ ぶぎー

つきは もう しずむよ

よいこで いようなんて おもわなきや

だれでも そのばで きゃんびーはっぴー

いかした びーとの むーんびーむ ぶぎー

いますぐ せかいが おわっても

なんにも きにする ことはないさ

れつつごー くねーじー なう

おくすり

おくすり

おくすりを ちょうだい
べつに びょうきでは ないの
でも おくすりを ちょうだい
ばかに つける くすりなら
まにあってるわ
だけど おくすりを ちょうだい
あの おくすりを ちょうだい

たのしい きぶんになる おくすり
しあわせに なれる おくすり
せかいが ばらいろに かがやいて
さつきまでの かなしみや くるしみが
うその ように きえさつてしまう
そんな ひみつの おくすり
そう あの おくすりを ちょうだい

にんげんは くるしむために
うまれてきた わけじゃ ないから
いつも たのしく すてきな きぶん
ですごしていく けんりが あるわ
だから あの おくすりを ちょうだい

ほかに なにも いらないの
おくすりが あれば いいの

かぞくと　すごす　だんらの　ときや
ともだちと　さわいで　いたときや
こいびとと　いっしょの　あまい　じかん
それなりに　ときめきは　したけれど
でも　それとは　ぜんぜん
くらべものに　ならないくらい
すてきな　せかいが　あるのだわ
あたしは　しっている

ただ　やさしい　ひかりの　なかで
ゆるやかに　たゆたう　じかんと
いつたいに　なつて
それを　かんじている

いちにちじゅう
なにも　しないで
なにも　たべないで
ほほえんでは　いるけど
だれも　あいさないで

くうきに　とけていく　からだ
てんに　まいあがる　こころ
そして　そのとき　あたしは
えいえんと　むつみあう

だから　あたしに　かまわないで
あたしに　はなしかけないで
あたしに　たいして
よけいな　かんじょうを　もたないで
あたしの　ゆるやかで

こつふくな　じかんを　こわさないで

おくすりが　きれる　とき

それは　かんがえる　だけでも

みのけが　よだつ　ことだわ

みじめで　くるしく　みにくい

そんな　じぶん　とつぜん　きづいて

どうしようもなく　さみしくなる

かぎりなく　あたしを　さいなむ

ふあんの　きよだいな　かげ

そのときが　あまりにも　おそろしいから

どうしても　それだけは　さけたいから

いまは　そういう　りゆうで

おくすりが　ほしくなるのかもね

おくすりを　ちょうだい

おくすりを　ちょうだい

もう　どうでも　いいの

あなたが　なにを　いっても

せつとくりよくは　ないし

よけいな　お世話だわ

とにかく　おくすりが　ほしいの

たぶん　あたしは

ひとを　だましても

ぬすみを　おかしても

だれかを　ころしても
おくすりを　てにいれるわ

それは　ただしいことに　ちがいないわ
だって　そうとしか　かんがえられないもの

にんげんは　くるしむために
うまれてきた　わけじゃ　ないから
いつも　たのしく　すてきな　きぶん
で　すごしていく　けんりが　あるわ
そう　ぜったいに　あるわ

でも　きつと　また

あの　すばらしい　じかんは　やってくる
あたしは　しっているの
かぎりなく　やさしくて
おだやかな　せかいを

だって　あたしは　そこに　いたのだもの
そして　きつと　また　あそこに　いけるわ
だから

おくすりを　ちょうだい
おくすりを　ちょうだい
おくすりを　ちょうだい

さむいくにへのがみ

さむいくにへのがみ

うなりごえを あげるのに いいかげん つかれて
きたかぜは どこかへ 行って しまいましたか

まるで どうぶつたちの ように

ねむっていた だいちに

めざめのときが ちかづいて つぶやく
ねぼけたこえを ききましたか

たいようが ちからを とりもどして

あたりは いちめんの ぬかるみ

でも まちは ほほえんで いるのでしょうか

やがて はなたちの かあぺつとが しきつめられ
もうちよつと さきの そらは びやくや

むかし ぼくが かぜを おいかけて いったとき
わすれてきた こころの かけらは

あの ほしを しずめた みずうみの みぎわに
まだ そのまま なのでしょうか

ちやいるど

ちやいるど

こどもは おかしが だいすき
いつも はみんぐを しながら たべる
おきにいりの あにめの てえまそんぐ
おかしを たべていれば
とーっても しあわせ
ままや ぱが とめないと
たべつづけて おなかを こわしてしまう

あのこは あいが だいすき
みつけたら すぐ てをのばし たべる
おとなりの いえに あがりこんだり
まちを あちこち あるきまわったり
・・・・・・・・

だけど いつまでも
おなかは いっぱいに ならない

あのこは あいが だいすき

りゅうせい

りゅうせい

こんやは ながれぼしが
とても おおい

こちらに ひとつ
あちらで ふたつ

もっと もっと ふって
もっと はげしく もっと たくさん
いままでになかったほど

そしたら まちのひとたちは みな
びっくりして そとにとびでるでしょう

もっと もっと ふって

そうすれば やがて
あなたもそとに でるでしょう

そして いつもなら
そらなどみない あなたも
わたしと おなじ
よぞらを見る ことでしょう

もっと もっと ふって
もっと もっと ふって

もっと はげしく もっと たくさん

せかいがおわるほど ふって

けれど にが^がつは まだこない

けれど にが^がつは まだこない

ぼくの まどべの さみしさは
くもに よくにて ねむいいろ
きのうが きょうに なったって
きみは いつでも そらのなか

けれど にが^がつは まだこない
けれど にが^がつは まだこない

しろい か^がつ^ぶの み^るくていー
さめて し^まつて ば^らもちる
ぎんいろの ご^ご おもいだす
なくした こいの ふたつみつ

けれど にが^がつは まだこない
けれど にが^がつは まだこない

びょうき

びょうき

ぼくは ひとりでいるのが すきだ
だれにも はなしかけてほしくない
しかし みんなは それをりかいできないようだ

それどころか だれとも はなしたくないんだ といつても
うん わかったよ といいながら はなしかけてくる
にんげんは みんな だれかに はなしかけてほしいのだと
しんじて うたがわならしい

ぼくが ほんきで そうおもっているのが
ようやく わかって

こんどは そういうのは ころの びょうきなのだ
といいはじめる

でも びょうきのひとは
たにんをさけたり はなすのがくつうだったりするが
ほんとうは みんなと つきあいたいし
しゃかいの なかに はいっていきたくて
それで とても くるしい ということだ

ぼくのばあい ひとりで いるとき
せいかいは おだやかに かがやいている
ただ みちたりて しあわせな きぶん
すこしも くるしいことなんかない

だから たぶん

ぼくは びょうきとはちがつとおもうのだ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8871e/>

なあすりいらいむ

2010年10月9日12時39分発行